

先月工場火災で窮地 鈴鹿の洋菓子店 CFで支援募る



カヌレを手にするドミニクさん＝鈴鹿市江島町で

鈴鹿市内でパン・洋菓子店を経営し、F1ドライバーにもファンが多いフランス出身のドミニク・ドゥーセさん(五七)が、クラウドファンディング(ネットによる資金調達)で支援を呼び掛けている。先月発生した工場の火災で、主力商品だった母国伝統の菓子が生産できなくなる窮地に陥ったためだ。再起に必要な千五百万円を七月二十八日まで集め、全国からファンが集う十月のF1日本グランプリ(GP)に間に合わせたい考えだ。

パン職人のドミニクさんは、鈴鹿サーキットが一九八七年に初開催された日本GPに向け、施設内のベーカーリーストランで働く人材を求めていることから来日。その腕前はセナやプロスト、シューマツハーら選手にも親しまれた。九四年に独立し、同市南江島町にフランスのパンや菓子を扱う「ドミニクドゥーセの店」を構えた。現在は支店も国内外三カ所に設ける成功ぶりで、それを支えたのがフランスの伝統菓子「カヌレ」だ。

カヌレはフランス・ボルドー地方の伝統的な焼き菓子で、小さな王冠のような形状。サーキット内のブラスやネット販売でも飛ぶように売れ、売り上げは商品全体の七割に及ぶ人気となった。

日量一万五千個ほどを生産してきたが、同市道伯町の工場が五月二十四日夜に火災で全焼。焼け跡で人生に絶望しかけたが、従業員のため、何よりファンのためにと気持ちを切り替えた。周囲の薦めもあって、再起に向けた資金をクラウドファンディングで募ることを決めた。本店でカヌレ専用のオーブンを導入するなどの改修で日量九千個の生産を目指しており、自己資金で工面しきれない千五百万円を目標金額とした。

ドミニクさんは「応援をもらって復活し、美しくておいしいカヌレをまた全国に届けたい」と話している。クラウドファンディングサイト「キャンプファイヤー」を通じて五千円から支援でき、カヌレの返礼品も用意している。(片山健生)